

未来の千葉を築くため 新湾岸道路への思いと決意

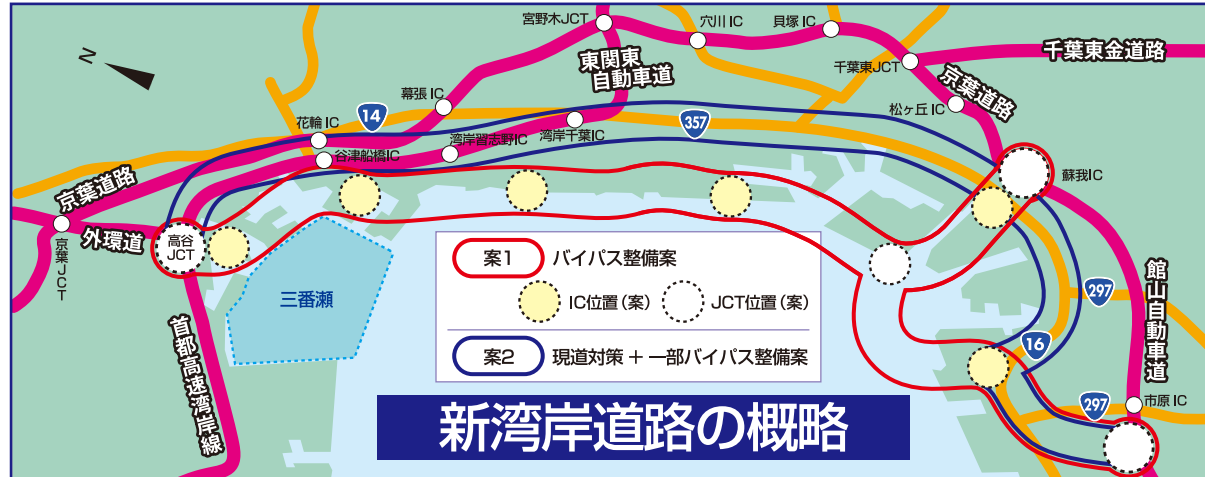


県の施策を質問する佐野彰県議

定例県議会一般質問

「行動力と実行力」で住み良いふるさとづくりに力を注いでいる佐野彰県議（千葉市中央区選出、6期）は9月定例県議会で登壇し、新湾岸道路や千葉大学との医療連携、千葉市青葉の森に建設される新県立図書館、羽田空港発着の航空機騒音などについて県執行部に質問しました。東京湾沿岸の大動脈として新湾岸道路建設が計画されていますが、佐野県議の質問に対して知事は、新湾岸道路計画の早期具休化に向けて積極的に取り組むと、意気込みを語りました。

佐野議員 湾岸地域の慢性的な渋滞対策として、新湾岸道路の早期実現が必要。私は、このことについて県議に当選して以来、長く、県議会をはじめとして、あらゆる場面で訴え、県民の皆様とともに国土交通省へ働きかけてきた。国土交通省では前事務次官の吉岡幹夫氏が、また、千葉県では、元県土整備部長である野田勝氏などが、私たちの思いを受け止めていただき、新湾岸道路プロジェクトが始動し、大きく前進してきた。



新湾岸道路の概略

引き続き、知事はじめ現在の執行部においても、新湾岸道路プロジェクトを止めることなく、早期実現に

新湾岸道路計画に尽力 古岡事務次官に感謝



右から四童子隆県土整備部長、佐野彰県議、古岡幹夫事務次官、阿部紘一自民党県連幹事長、野田勝元千葉県県土整備部長

佐野県議はさる6月24日、国土交通省の吉岡幹夫事務次官（当時）のもとを訪れ、新湾岸道路について面談しました。同行したのは野田勝元千葉県県土整備部長（平成28年4月～平成30年7月在職）、阿部紘一自民党県連幹事長、四童子隆県土整備部長の3人。古岡次官と野田元県土整備部長は在職中、新湾岸道路プロジェクトの推進に大きな役割を果たしました。事務次官室で佐野県議らは新湾岸道路のルート計画図を前にして、これまでの古岡次官の尽力に感謝するとともに、計画の一層の推進を要望しました。

向けて強力に進めることを期待したい。

そこだろうか、新湾岸道路の早期実現に向けた取組状況はどうか。

知事 新湾岸道路は、湾岸地域の渋滞解消や防災力の強化はもとより、第2の開港を迎える成田空港のアクセスを高速化し、我が国の国際競争力の強化や生産性の向上に資する大変重要な道路です。

本年2月までに国や沿線市と連携し、地域の理解や協力を得ながら道路計画を策定するため、沿線住民や企業などへの情報発信や意見聴取などのコミュニケーション活動を実施し、約4300件の意見をいただいたところ。これらの多くの意見を踏まえ、道路計画の基本的な

考え方に対する助言を得るため、5月には有識者委員会が開催され、新たな道路計画の必要性が確認され、とともに、複数の概略ルートや構造案が示され、7月からは、この案などに対する意見を聴取するため、新たに沿線への広報紙の全戸配布などコミュニケーション活動を実施しています。

引き続き、多岐にわたる関係者との丁寧な合意形成に努め、新湾岸道路が新時代にふさわしい明るい未来が描ける道路となるよう、計画の早期具休化に向けて積極的に取り組んでまいります。

新湾岸道路と連携

千葉港や周辺地域活性化

再質問 佐野議員 新湾岸道路と連携した千葉港や周辺地域の活性化に向け、県はどのように取り組むのか。

県土整備部長 物流機能向上に向けて埠頭再編を進めている千葉港におきましては、新湾岸道路の効果をも

また、千葉市などの官民関係者と連携して、千葉ポートパーク周辺地域の賑わい創出に向けて取り組んでいます。

千葉大病院と県立病院

人事一元化し医師確保を

地域医療体制の維持に心を砕いている佐野県議はさる7月30日に千葉大学の大鳥精司副学長・医学部附属病院長と小山田享史副病院長、9月30日には横手幸太郎学長、中谷晴昭副学長と面談し、千葉大学病院による県立病院への医師派遣などについて意見を交換しました。

佐野議員 大学病院に属する医師の人事は一般的な人事と異なり、いわゆる医局からの派遣と言われるものだが、関連病院への派遣はいつたん、大学病院を退職して県立病院であれば県に雇用される形になるが、人事権は医局が握っている。県立病院における医師の確保については、実際問題として、多くを千葉大学医学部附属病院からの派遣に依存しており、病院局としてコントロールできる体制になっていない。



千葉市中央区仁戸名町の千葉県がんセンター

令和6年度 県立病院の赤字58億円

物価高騰などで過去最大

佐野議員 先に発表された病院事業会計の前年度決算では、一般会計から運転資金として、27億円もの借り入れを行っているにもかかわらず、11年連続の赤字で、しかも赤字額は58億円と過去最大となった。

病院局としては、令和6年度に策定した経営強化プランに基づく経営改善の取り組みを強化していくとのことだが、具体的にどのような進め方なのか気になる。過去最大の赤字幅になっ

た原因はどこにあり、今後どのように対策を行うのか。病院局長 県立病院の令和6年度の決算は、純損失が過去最大の約58億円となり、医業収支については、前年度との比較で約34億円悪化するなど、大変厳しい結果となっています。

この原因としては、医業収益が前年度とほぼ同程度となる一方、令和6年度の給与改定等に伴う給与費の増加や、物価の高騰に伴う委託費等の増加により、医

れば、県内全体にわたり最適な意思配置が行われるものと考えている。

そこだろうか。県立市町村立病院を問わず、公立病院の医師の確保を県が主導して行うため、千葉大学と一体とした人事の機能を県が持つべきだと思いませんか。

保健医療担当部長 千葉大学は、公立病院をはじめとする県内の多くの医療機関に医師を派遣するなど、地元千葉県の地域医療体制の維持に貢献していただいていると認識しています。

県では、これまで千葉大学と連携し、地域医療に従事する意欲のある学生のための医学部入学定員20名分を

県立病院の経営状況視察

〈視察先〉

- 5月7日 千葉県こども病院
- 5月15日 千葉県立佐原病院
- 5月23日 千葉県総合救急災害医療センター
- 5月26日 千葉県循環器病センター
- 千葉県がんセンター
- 千葉リハビリテーションセンター

佐野県議は、赤字が膨らむ公立病院の経営状況を調査するため、県立病院等を訪れ、現場の病院長や看護師らと経営改善の取り組みなどについて、率直な意見交換を行いました。

それぞれの病院で、具体的な意見や課題が出され、非常に密度の高い意見交換となりました。求められる医療の質を維持しつつ、限られた資源で経営改善に挑む現場の皆さんの真摯な姿勢を改めて実感しました。

先端医療機器活用へ 医療人材の確保必要

佐野議員 高額な先端医療機器を効果的に活用するために、医療人材をどのよう

がんセンターの隣地へ集積提案

県こども病院の老朽化

佐野議員 投資効果を最適化するために、老朽化しているこども病院は、がんセンターの隣地に建て替えるなど、一体化を図るべきと思うがどうか。

病院局長 こども病院については、昭和63年に本館が完成し、37年が経過していることから、建物の老朽化への対応が課題であると認識しています。

一方、小児医療を取り巻く環境は、将来における小児人口の更なる減少や、医師確保の問題、医療の進展など、今後、大きく変化していくことが見込まれています。

病院局としては、今後も県民に高度な小児医療を安定的に提供するため、こども病院と他の医療機関との役割分担や連携なども含め、引き続き様々な対応の可能性について、慎重に検討してまいります。

うに確保していくのか。

病院局長 先端医療機器の活用は、患者に良質な医療を提供するとともに県立病院の収支改善に寄与するものであり、その効果を最大限に発揮するためには、医療人材の確保が重要です。

また、医師や医療従事者にとつて、先端医療機器が使用できる環境は大きな魅力であると考えられることから、

ら、大学への医師の派遣要請や医療従事者の募集の際に、県立病院の医療環境について、積極的にアピールします。各県立病院においても、研修の充実や病院間での人事交流を通じ、それぞれが保有する機器について、運用に従事する職員の技術向上を図るなど、引き続き必要な人材の確保、育成に取り組んでまいります。

新県立図書館 魅力的な交流拠点に



佐野県議の呼びかけで実現した青葉の森公園を
中心とした連携の検討会議

佐野議員 私の地元、千葉市中央区の青葉の森公園において、新県立図書館・県文書館複合施設の建設に向けた準備が進んでいる。本年6月に徳島県文化の森総合公園を訪れ、公園内の県立図書館、県立博物館等の活動状況について視察してきた。その際の感想として、各施設が連携し、人の集め方やイベントについて、良く研究されていると感じた。今後の進め方を確認したいと思う。県民に喜ばれ親しまれる場となるよう、新県立図書館の整備を契機に、青葉の森公園内の施設や周辺機関との連携について、今後どのように進めていくのか。

佐野議員 保健医療大学についてうかがう。有識者による調査検討会議の開催スケジュールおよび主な協議事項はどのようなものだったのか。

健康福祉部長 保健医療大学の機能強化については、昨年度、調査検討会議を設置し、4回の会議を開催しました。

佐野議員 新設の図書館が魅力的な交流拠点となるよう、公園を中心とした関係機関による連携イベントや広報等の実施について、関係者が集まり、情報共有や意見交換を行っているところだ。

佐野議員 新しく県立図書館ができることで、青葉の森公園に多くの人が集まり、何度でも訪れたいと感じるような、県民に親しまれる場になるよう、各施設が連携して取り組むことを要望する。

保健医療大学の統合立地

震災リスク高く「幕張」は不適切

佐野県議主張

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

初めから「幕張ありき」では

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

佐野議員 6月議会の健康福祉常任委員会において、地元への説明をしっかりと行うよう求めたが、ようやく7月末になって初めて1回、説明会が開催された。

学校給食で食育教育 地場産物を活用

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

佐野議員 学校給食における地場産物の活用を一層進めていくことは、食育・地域連携・農業振興の観点からも重要と考える。

航空機騒音軽減せず

令和6年度 千葉市上空

国土交通省航空局長への要望書

千葉市中央区選出の千葉県議会議員、佐野と申します。

貴局におかれましては、昨年1月2日に発生した羽田空港航空機衝突事故を受け、航空の安全・安心の確保に向けて、航空の安全対策に取り組まれていますことに、感謝申し上げます。羽田空港の飛行ルート下となっている千葉県民にとりましても、安全対策の進展に注目しているところであり、しっかりと進めていただきますようお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染症が一段落し、航空機の運航が急回復したことで、羽田空港への着陸回数も、コロナ前の水準を超えて増加しています。

私はこれまで、千葉県における羽田空港の航空機騒音問題に一貫して取り組んでまいりましたが、特に、南風好天時の着陸ルートが千葉市上空で交差し、騒音が集中している点について大きな問題と捉えています。

平成31年1月に貴局からは、機能強化に伴い南風時の都心上空ルートの運用が開始されるなど、首都圏での騒音の共有がはじまり、千葉県の騒音影響が軽減されるとの説明がありました。

しかし、令和5年度の騒音測定結果を見ると、千葉市内の3つの測定局のうち2つの測定局では、機能強化前の令和元年度と比べ、騒音測定値が増加していました。貴局からの説明では、南風運用の割合が多かったことが要因のひとつであるとのことでした。私としては、年間発着容量が約4万回拡大されるのに、本当に騒音影響が軽減されるのか疑問を持っていましたが、やはりかという印象です。

また、羽田再拡張事業に係る県・市町村連絡協議会において、千葉県側から都心上空ルートの運用の徹底に加え、更なる運用の可能性の検討を貴局に求めています。私としては、東京都側の住民の状況を見ると、これ以上、現在の都心上空ルートの運用を拡大することは非常に難しいのではないかと考えております。

一方、羽田空港の着陸機が年々増加していく中、千葉県、特に千葉市の飛行ルートをこのまま許容することもできません。

そこで、千葉市の中で、最も騒音を受けている交差部の騒音軽減を図るため、貴局に対し以下の方策の実施を求めます。

○南風好天時の着陸ルートについて、北方面からの着陸機はB滑走路へ、南西方面からの着陸機は千葉・市原方面からB滑走路又はD滑走路に分散して着陸させること。

この方策を実施することで、千葉市の交差部における騒音は大きく軽減できるものと思います。

繰り返になりますが、令和5年度の千葉市の騒音は、機能強化前を超える結果になったところがありました。機能強化前に約束したことを実現するためにも、貴局は真摯に、千葉市、ひいては千葉県の騒音軽減を図るべきです。

さらに、視野をもう少し広げますと、羽田空港の西側にある横田空域の存在を無視することはできません。千葉県が求めている首都圏全体での騒音負担の共有のため、横田空域を削減し、西側から着陸を可能とする等抜本的な対策を取るべきと考えます。

貴局に求められているのは、増便や効率化だけを追求した航空機運用ではなく、住民の目線に立った、騒音に配慮した航空機運用です。

貴局には、長年の懸案となっている千葉県上空の飛行ルートの更なる騒音軽減の実現に向けて、あらゆる角度から検討し、早急に取り組むよう、強く求めます。

令和7年7月1日
国土交通省航空局長 宮澤 康一 様
千葉県議会議員（千葉市中央区選出） 佐野 彰

佐野議員 羽田空港の騒音問題についてうかがう。

令和2年3月の羽田空港の機能強化に伴って、年間の発着容量が3・9万回増加したことで、令和6年度には着陸回数が過去最高になっている。

都心上空ルート等により、首都圏全体での騒音の共有がはじまり、千葉県の騒音影響が軽減されるとの説明があったが、本県の中でも、特に南風好天時に2つの着陸ルートが交差する千葉市は大きな影響を受けており、航空機騒音がどうなっているか非常に気になる。

そこでうかがうが、千葉市における羽田空港の航空機騒音の現状はどうか。

総合企画部長 7月に開催された「羽田再拡張事業に関する県・市町村連絡協議会」において、国から示された令和6年度の千葉

市の騒音測定値は、都心上空ルート運用開始前の令和元年度に比べ、減少していないことが認められましたが、

この理由として国は、「使用する滑走路や航空機の種類等により数値は変動するため、一概に要因を示すことは困難だが、令和6年度は元年度と比べ南風が多い気象条件であったため、千葉市上空を通過する南風好天時の従来経路の運用が多かったことが要因の一つと考えられる」としている。

県としては、気象条件等

横田空域の削減要望

飛行ルート 抜本的な見直し必要

佐野議員 千葉市上空の着陸機の交差の低減や解消に当たって、飛行ルートの抜本的な見直しが必要と考えるが、県はどのように対応していくのか。

総合企画部長 これまで、国に対して本県の騒音軽減を求めてきた結果、飛行高度の引上げや都心上空ルートの導入など一定の対策が講じられてきたところですが、依然として千葉市の交差部の抜本的な騒音軽減には至っておりません。

国は、交差部にかかる騒音軽減については、管制技術の進展や航空機の技術進展を踏まえ、引き続き検討していくこととしています。

佐野議員 本県の刑法犯認知件数は、令和4年から3年連続で増加している。直近の令和6年の数字を見ると3万8394件で、そのうち、殺人・強盗などの凶悪犯の認知件数については、289件であり、全国的に見て高い水準にある。

こうした中、保護司を務める私の知人から、犯罪により生じた損害について、当然に責任を負うべき加害者が賠償責任を果たさず、犯罪の被害者が十分な賠償を受けることができないという話を聞いた。

被害者は何の責任も落ち度もないのに、加害者の身勝手な行動によって、ある日突然に生命や財産などを侵害され、不運な境遇に突き落とされてしまう。

こうした方々に対する支援、とりわけ、被害者の残された子どもたちの将来のために、その学業を応援することが必要と考える。

そこでうかがうが、県の犯罪被害者等見舞金の支給状況はどうか。また、市町村における見舞金制度の導入状況はどうか。

環境生活部長 犯罪被害者やその御家族、御遺族は、犯罪により生命や財産、心身などに大きな被害を受け、更に、裁判への参加など多くの負担を抱えています。そのため、被害を受けたときから一日も早く立ち直れるよう、社会全体で生活面、経済面など様々な支援を行うことが必要です。

このため、県では、経済的な支援の一つとして、犯罪被害者等が受けた被害

県の犯罪被害者見舞金 3年間で76件に支給

要望 佐野議員 千葉市の騒音測定結果は依然として低減しておらず、こうした状況を踏まえれば

県としては、千葉市の交差部を含む本県上空の飛行ルートについて、首都圏全体での飛行ルートの更なる分散化といった抜本的な対応

千葉市をはじめとする本県上空の騒音影響を軽減するため、横田空域の削減を含め、首都圏の空域を抜本的に見直すよう、県からも国に働きかけるよう要望する。

現状の対策には限界があり、抜本的な見直しが必要と考えるが、そこで無視できないのは、羽田空港の西側にある横田空域の存在。

私は先日、国土交通省航空局長宛に横田空域を削減し、西側から着陸を可能とするなどの抜本的な対策を取るよう、要望した。

千葉県は、伊豆半島、房総半島、羽田、米軍が管制する横田空域、民間航空機の飛行ルート、高度7000m、5500m、3700m

からの早期回復と生活再建の一助となるよう、令和4年度に見舞金制度を創設し、令和6年度までの3年間で遺族見舞金35件、重傷病見舞金41件、合計1450万円を支給しました。

また、市町村における見舞金制度については、県警と連携し、地域の犯罪情勢や支援の必要性を説明するなど導入を促した結果、前年から23団体増え、令和7年4月1日現在で、38団体まで導入が進んでいくところと

●県政やまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

佐野 彰事務所

〒260-0808 千葉市中央区星久喜町774-1-103
TEL.043-261-0123 FAX.043-261-0129